第 16 回猪名川部会（2002.11.8 開催）結果報告	2002.11.13　庶務発信

開催日時：２００２年１１月８日（金）　１６：０５～１９：００
場　　所：ａｘビル-アクスネッツ
参加者数：委員 11 名（うち 2 名は部会長の要請により参加)、河川管理者 10 名、一般傍聴者 49 名、委員傍聴１名

１　決定事項

・ 次回部会の開催日時は、拡大委員会(11/13)等での議論、運営会議の検討をふまえ、後日決定する。

２　審議の概要

① 他部会、委員会ＷＧの状況報告および情報共有

資料 1-1「委員会および各部会、ＷＧの状況(中間とりまとめ以降)」、資料 1-2「委員会ＷＧ結果概要」をもとに、委員会および他部会、各ＷＧの活動状況等について報告が行われた。

② 最終提言に関する意見交換

今本委員(最終提言作業部会リーダー)より、資料 2-1-2「淀川水系流域委員会 提言(素案 021028 版)」及び 2-1-2 補足「提言要旨(案)」をもとに、最終提言の素案内容について説明が行われ、その後、内容についての意見交換が行われた。

○ 主な意見

・ 従来の延長線上で河川整備を行うのか、大きく転換するのか。我々は今、岐路に立たされている。委員一人一人がよく考え、素案へ意見を出してほしい。(リーダー)
・ 河川敷利用のところは、「自然復元形態の進展に伴い、段階的に堤内地へ戻していくことを目標にする」としてはどうか。
→河川公園の堤内地への移動は、もっと積極的に推し進める記述に変更してほしい。
・ 堤防の強化には長い期間と多額の予算がかかる。今の財政事情でそれが可能なのか。またその間の治水対策はどうするのか。整備の優先順位をしっかり立てる必要がある。
・ 環境用水という言葉は、概念的で一般には分かりにくい。
→誤解を与えるような表現があれば、修正を検討する。言葉の定義等は、必要に応じて欄外で補記することも検討する。（リーダー）
・ ダムは河川環境だけでなく現存する自然環境も悪化させるという記述が必要である。
・ 環境的特性のところで、「絶滅に瀕した魚や貝類もやや復活の兆しがある」との記述があるが、あまりに楽天的な表現であり、誤解につながる。
・ 4-6 ダムに関しるＡ案、Ｂ案は文面だけでは違いが明確でない。
・ 余野川ダムについては、提言に記述するダムの一般論とは切り離して考えるべき。整備計画原案が出された後に議論すべきである。
・ 最終提言を変更した際、細かい言葉の修正を除き、どの部分をどう修正したのか分かるような形で資料を作成する。
→細かい文言の修正を除き、主要な論点の変更は分かるようにしたい。（リーダー）

※なお、提言素案に両論併記されていたダムの問題に関しては、出席した委員の大半がＢ案への支持を表明した。

③ 一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者３名から、「新規ダムより現在計画中のダムに関する議論が重要」、「流域委員会の提言は、武庫川のダムなど兵庫県の河川整備にも影響力を持っている。」等の発言があった。

※このお知らせは委員の皆様に会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」、詳細については「議事録」を参照下さい。